

やさびのイト

2009
11・12
vol.13

やさしい美術プロジェクトは病院と協働で「やすらぎのある快適な医療空間」を模索し創出する、学生主体の活動です。

ちよだ見学会開催



特集1 ワークショップに迫る

P2・3 参加型作品の企画・準備から実施まで

コラム Ito Gallery

P5 やさびのイトによる「絵はがき」紹介

デイサービスちよだと協働で行う作品制作体験が、10月から再開されます。それに向けてメンバー対象の見学会が9月18日、デイサービスちよだで実施されました。

見学会は、保護者の方に対する本取り組みについての説明、職員さんとの体験内容に関する検討など、今後の活動をより充実させるためのベース作りを目的として行われました。

昨年度から活動を体験している参加児童も含めた、5人の子どもたちそれぞれの個性と制作体験の様子をより明確に把握するため、この日も制作に参加しました。

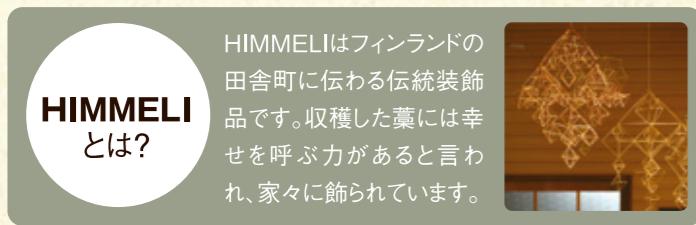
好きな色をたくさん使って絵を描く子もいれば、「花」などの具体的なイメージを表現する子もあり、集中して取り組んでいました。また、昨年度から引き続き参加している子どもたちは、再会の瞬間からメンバーに慣れ親しんだ様子を見

せ、膝の上に座って絵を描く光景も見られました。

見学会後、職員さんより「昨年度参加した子はメンバー着用のピンク色の取り組み用作業着を覚えており、それで安心したのではないか」というお言葉をいただきました。

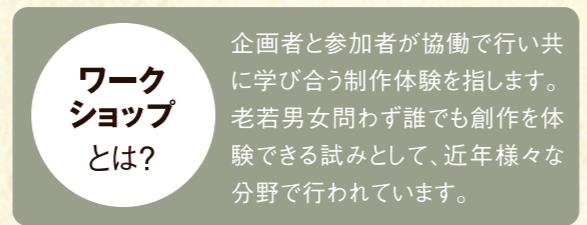
今回の見学会を通して、子どもたちだけでなく保護者の方に対する職員さんの配慮や、ボランティアの方々の子どもたちへの接し方など勉強させられることばかりで、大変充実した見学会となりました。

現在、本格的に始まる制作体験に向け、準備を進めています。メンバーが入れ替わっても、「子ども一人ひとりに合わせて取り組む」「子どもたちと一緒に作品を作り上げる」という点は変わりありません。子どもたちがリラックスして元気に活動でき、かつ新しい刺激を感じられる作品制作体験が再び始まろうとしています。(文・堀 真知子)



HIMMELI とは?

HIMMELIはフィンランドの田舎町に伝わる伝統装飾品です。収穫した藁には幸せを呼ぶ力があると言われ、家々に飾られています。



ワーク ショップ とは?

企画者と参加者が協働で行い共に学び合う制作体験を指します。老若男女問わず誰でも創作を体験できる試みとして、近年様々な分野で行われています。



合計約40名程の病院職員さんに参加していただいた。

仕事の話や地元の話、大地の芸術祭、本プロジェクトについての話題で職員さんと語らう場となった。

ワークショップ 開催

8月

ワークショップ 開催日 決定

7月

6月

病院職員さんの不安な気持ちを理解

●準備

企画者は先を急ぐあまり、病院職員さんがワークショップに対して抱く時間的問題や難易度に対する不安を理解していないことに気づく。

「HIMMELI (ヒンメリ)」を作る楽しさを伝える・実演

●研究会

- HIMMELIを持参し、実演制作を披露。
- HIMMELIに込められた思いや歴史を改めて紹介。

職員さん の意見

思ってたよりも
簡単に作れそう。

企画者の意図ばかりを主張するのではなく、参加者となる病院職員さんの立場に立って考え、より具体的でわかりやすい説明することで企画への理解を得られた。

ワークショップから得られたもの

ワークショップ形式の作品では、参加者と企画者の間でとられるコミュニケーションによって、「作って見て楽しむ作品」に留まらない深い意味や関係性が生まれる。展示物として鑑賞する作品と異なり企画者自身が作品を通して参加者に歩み寄ることが、病院という患者さんの生活空間で活動を展開するやさしい美術プロジェクトの根本にも通じるという思いを深めた。

●準備

- 会場展示や院内展示に使用するHIMMELI制作
- 道具、材料の準備

対応策

- 開催日を2日間設ける
- 開催時間中、会場への出入りを自由にする
- 1時間／30分／15分の所要時間別にコースを作る



●準備

広報物・道具・材料などの準備

- 学内ワークショップ開催の告知ポスター制作
- 制作しやすい道具の選定・準備
- 材料を切りそろえる
- サポートスタッフへの制作方法・注意点の指導

予想外の問題が多発

- 道具やごみが散乱
- たこ糸を藁に通す作業は予想以上に難しい
- 藁によっては裂けやすいなど

学内 ワークショップ 実施

●反省

問題点の洗い出し

- 道具面の改善（使いやすさの追求）
- 試作品の制作や実施実験を行う
- 制作工程の見直しと、簡略化を目指す

●研究会

学内ワークショップを報告

学内ワークショップ実施例の詳細を報告。それでも、病院職員さんの持つワークショップに対する不安感をぬぐうことはできなかった。

●研究会

職員さん の意見

- 妻有(地元)の藁を使用できないか相談
- ワークショップの意義を説明

●ミーティング

HIMMELI を作品として提案

- 作品として提案する意図は？
- 十日町病院に展示する意味は？

展示のみの概念にとらわれず、病院での活動という背景と、作品の性質を考え、提案のあり方を根本から見つめる。

病院内でワークショップを開催する意義

HIMMELIを見て自分が温かい気持ちになった体験を、病院内の方々に伝えたいと思い企画者は展示を提案した。またワークショップは参加者が「自分で作品を作ることに楽しみがある」と考え、病院内でのワークショップを開催することにした。

HIMMELI 作品としての 立案

4月

HIMMELI WORKSHOP 企画

5月

病院職員さんへ企画の提示、説明

こんな複雑なもの自分たちが作れるだろうか。
通常の業務に支障をきたさないか不安だ。

●反省

学内ワークショップを企画

病院職員さんの意見をふまえ、具体的な実施例として、名古屋造形大学内(以下学内)で学生対象ワークショップ開催を企画。

ワークショップに迫る

大地の芸術祭2009の会期中、新潟県立十日町病院で病院職員さんを対象に開催された「HIMMELI WORKSHOP(ヒンメリワークショップ)」を例にワークショップの企画立案から準備、実際に「ワークショップ」が開催されるまでを紹介します。

HIMMELI WORKSHOP企画 岡村 香 編集・構成 ヤサビのイト編集部

足助病院 絵はがきキット からご紹介

足助病院内各所に「絵はがき制作キット」を設置し、病院利用者の方々による絵はがきが多く集まりました。



集まった絵はがきには絵だけではなく、患者さんへの気持ちのこもったメッセージが添えられているものもあります。

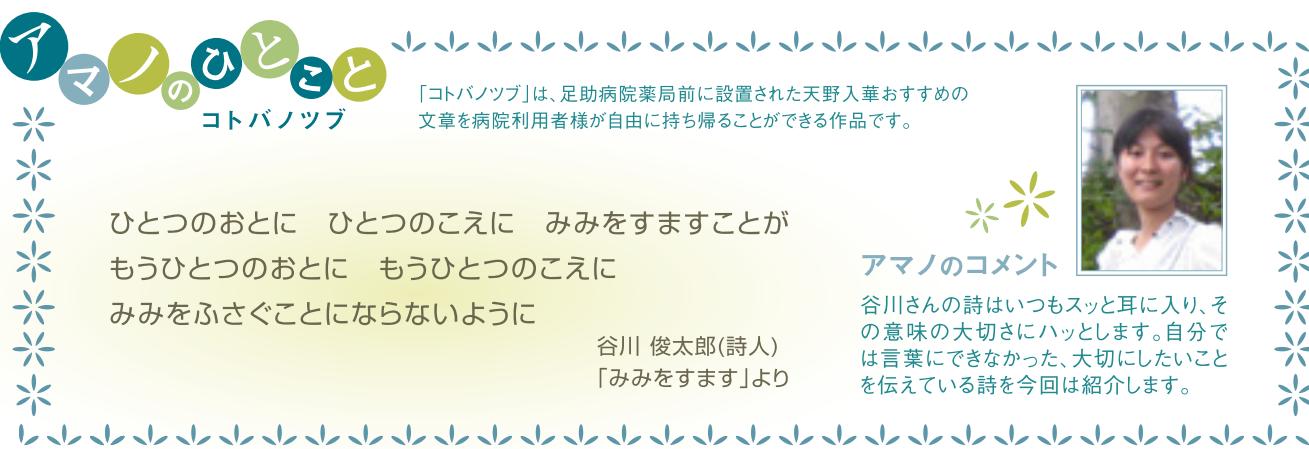


アマノのひとこと コトバノツブ

「コトバノツブ」は、足助病院薬局前に設置された天野入華おすすめの文章を病院利用者様が自由に持ち帰ることができる作品です。

ひとつのおとに ひとつのこえに みみをすますことが
もうひとつのおとに もうひとつのこえに
みみをふさぐことにならないように

谷川 俊太郎(詩人)
「みみをすます」より



Ito Gallery

ヤサビのイトによる「絵はがき」紹介

足助病院の入院患者さんのベッドサイドに設置されている絵はがきフレーム付きマルチボックス「私の美術館」には季節ごとに選ばれた絵はがきをプロジェクトからお届けしています。絵はがきワークショップや当情報誌の募集など皆様のご協力のもと、多くの絵はがきが集められました。今回はその一部をご紹介します!(文・竹中 仁美)



やさしい家からご紹介

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2009の開催中、「やさしい家」でも絵はがきワークショップを実施。地域の方々など、多くの来場者の方々に参加していただきました。



やさしい家の特徴

非公開で展開される十日町病院での活動を、芸術祭来場者や地域の方々に公開するため、「やさしい家」は運営されました。屋内は民家をそのままに活かす形で作品展示を行い、

そこが「空き家」であったことを告げると、多くの来場者の方々が驚かれました。公開して間もなく「プロジェクトの運営主旨と作品の解説を行おう。」という声が運営メンバーから自発的にあがりました。来場者一人ひとりに対して、病院との協働活動の説

地域とのつながり

メンバーが着ている「やさしい家Tシャツ」は「やさしい家」の目印になり、街中で声をかけられることもありました。ご近所からは野菜や漬け物などたくさんの中差し入れのほか「十日町のために、若い人が遠くから来てくれて



運営メンバーは芸術祭を通して、自身の制作した作品の意義を確信しました。ここで培われた経験、反省点は次の活動を開催する原動力になります。これから活動にご期待ください。
(文 浅野 瑞穂子)



参加型作品に取り組む来場者と談笑するメンバー

やさしい美術プロジェクトはこの夏、越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)にて開催された「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2009」に参加しました。そこで運営した空き家プロジェクト「やさしい家」での取り組み背景や実際にあった来場者の方々の反響をご報告します。

やさしい家の軌跡

明を始めたところ「丁寧な説明で、ここはあたたかいね。」など嬉しい激励の言葉をいただくようになりました。

こうして「やさしい家」の来場者数は、二千三百八十九名。メンバーは多くの方々と時間を共有し、「人と接すること」を感じた50日間でした。「本当に『やさしい家』だったね。」といふ声もいただけるまでになり、多くの方の協力を得て、「やさしい家」はあたたかい「家」へと成長することができます。

運営メンバーは芸術祭を通して、自身の制作した作品の意義を確信しました。ここで培われた経験、反省点は次の活動を開催する原動力になります。これから活動にご期待ください。
(文 浅野 瑞穂子)

病院職員さんの オススメ

子どもの頃の遊び 暮らしと遊ぶ

vol.13 杉山 澄子さん
(A棟2階看護師)

私が小さい頃は、自分たちで作ったり考えたり工夫して遊んだのよ」と話す杉山さんは、足助出身。まだ道路も整備されていなかった当時、足助地区に生えていた竹を使い、自分たちで竹馬を作つて遊ぶ子もいたのだとか。

小学校では「ゴム跳び」が流行っており、輪ゴムをつなげて作つ



早川院長の一句

花には水が大事、人生には感謝が大事。

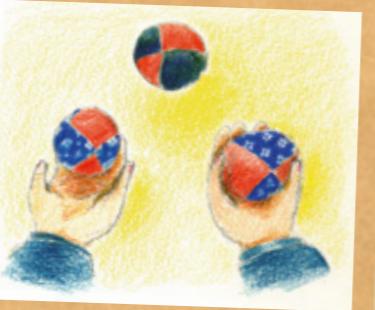
夕方になると、今度は快活な話し声が聞こえます。声の主は、地元の高校生。彼らは学校が終わると病院内の駐車場を通り抜け、裏口からこの売店前へやつて来ます。友達と談笑したりおやつや定期券を買い、売店員さんとも親しげに会話をします。そして帰る前で昼食をとる方もおり、同じバスを待つ人同士で談笑している様子も見られます。



夕方ごろの売店前スペースの様子

たゴムを持ち歩くのが当たり前。ときには赤や緑の輪ゴムを使って、個性を出していたと言います。また、中学校では、よくお手玉で遊んだそうです。現在は「お手玉」と呼ばれていますが、当時の足助地区では「おじゃみ」と呼んでいました。

学校から帰ると、友達の家や自宅の庭で遊ぶことが多く、かくれんぼでは自宅で飼っていた牛の小屋



や、裏山が格好の隠れ場所だったそうです。

今も昔も、子どもたちはそこにあらものを活かして遊ぶのが大得意。時代や大人が作る制限なんてなんのその、子ども流の工夫で楽しく遊んでいます。子どもの頃の遊びを思い出すことで、寒い季節も暖かい前向きな気持ちになれるのではないかでしょうか。

(文・張祐寿)

院内散歩

「売店前の憩い」

助病院では院長の「地域に開かれた病院づくり」という考え方のもと、この売店前のスペースを病院利用者以外の方々にも開放しているのです。様々な問題を抱え開放を断念した時期もありましたが、足助地域とそこに暮らす方々病院利用者の方々の「交流の場」として足助病院の売店前のスペースは存在し続けています。

今日も明るい話し声が、売店前から聞こえています。

(文・竹中仁美)

発見!! 町中アート

Vol.013

地面に 色が咲いた

テキスト:佐々木 希海



てくてく、とこここ、こつこつと、あなたは歩く。パタパタ、タッタとあなたは走る。そんなあなたの足元に色が

咲く。ほら、アート見つけた。
あなたが履いた靴と足音に『あなた』を感じ、あなたの足元は何だか不思議と魅力的に見える。

もうすぐ紅葉だね。落ち葉の上に、あなたを足して、ほら綺麗。もうすぐ冬だね。凍える季節にあなたを足して、何だか暖かい。季節が巡って春が来たら桜の絨毯にあな

た。夏が来たらじりじりの暑さにあなた。
季節が巡れば地面も変わる。あなたの履き物、今日はどんな気分?



山々を背景にして建つ足助病院。正面には川が流れ、豊かな自然に囲まれている。

まるで生き物のように、川沿いに並ぶ自然の造形作品たち。

(文・張祐寿)



豊かな自然に囲まれた足助病院。天気の良い日には、患者さんと職員さんが外を散歩することもあります。
足助病院周辺を散策して発見した「ちいさな秋」をレポートします!

第十回 足助病院 周辺散策



艶やかなオレンジ色の柿が青空に映える。



空を突くようにそびえる大日堂の大杉。



冷たい空気が、稻を立派なお米にしていく。



天然漁場の足助地区的川では鮎釣りが盛ん。ちょうど釣り上げたところをパシャリ!



ぶらりみちゆく 足助旅

妻有研修紀行



9月26日(月) 西尾里香
利用者の多い病院内
食堂前に設置され
立ちはだかれて熱いには
見てる人の涙を含
くかけたと職員
さんから話を聞いて
た。自分たちが上から
企画し、つくづくあげた
ものによって、人と人が
軽々しくつながっていました。



最終回

9月25日(日) 岡田春
やさしい家の生活では、
メンバー同士の距離感などを
近づけ、お互いに温かみを
持つことで、日々の生活
が楽しくなっています。
また、おはようございます
あさりやかで、やさしい
笑顔になつたのがうれしい
満足感を感じさせて
くれます。喜んであります。
本当に、喜んであります。
おはようございます
あさりやかで、やさしい
笑顔になつたのがうれしい
満足感を感じさせて
くれます。喜んであります。
本当に、喜んであります。

リーダー川島の ヤサビのウラ



リーダーがメンバーの古川くんに交代。リーダーの仕事は病院とメンバーを結ぶ「バトン」のようでした。

[連絡先]名古屋造形大学 やさしい美術プロジェクト「ヤサビのイト」係
〒485-8563 愛知県小牧市大草年上坂6004
TEL 0568-79-1111(代) FAX 0568-79-1070
URL <http://gp.nzu.ac.jp> MAIL gpnews@nzu.ac.jp
[協力]足助病院/足助町の皆さん/デイサービスちよだ/十日町病院

[発行]名古屋造形大学 平成19年度 文部科学省 現代GP選定事業
やさしい美術プロジェクト
[ヤサビのイト編集部]
浅野 瑠璃子(視覚伝達D・3年) 竹中 仁美(情報D・3年)
張 祐寿(メディア造形・3年) 井口 弥香(ディレクター)
第13号(奇数月第3日曜日発行)

やさしい美術からのおしゃらせ

絵はがき募集!!

やさしい美術プロジェクトでは、足助病院の入院患者さんが使用する絵はがきフレーム付きマルチボックス「私の美術館」に届ける絵はがきを募集しています!



【募集要項】 はがきサイズ 縦100mm×横148mm

*横書きのみの募集です。 *作品は返却されません。 *患者さんへの配慮により、選定する場合もあります。 *作品を刊行物などの資料に掲載する場合もあります。



取材で足助を歩いていて出会った釣人は、なんと足助病院の先生のお知り合いの方でした。なんと絵画教室も開いているのだとか。足助のコミュニティーの広さ、出会いの濃さに改めて驚いた一件でした。(張)

妻有での活動が一段落。すでにデイサービスちよだや、次の活動に向かって動き出す一方、足助病院での活動も目下進行中。年明けには搬入ラッシュが待っています。次号もぜひお楽しみに!(竹中)